

発達障害の学生 どう支える

東大、札学院大の教員ら勉強会

発達障害の大学生や専門学校を学校側が支える方策を考える勉強会が開かれ、発達障害の学生から相談を受けている東大や札幌学院大の教員たちの取り組み事例を報告した。

今月9日、札幌市内で開かれた。東大学生相談ネットワーク本部のコミュニケーション・サポートルーム室長の渡辺慶一郎さんは、同大での支援について「例えば、自閉症スペクトラムの学生が卒業研究を進められず困っている場合、担当教員が進捗状況をきめ細かくみてあげることが考えられる。相談するこ

とが苦手な学生には、教員が定期的に面談し、相談できる機会をあらかじめつくっておくとよ



い」と説明した。

同ルームのスタッフ綱島三恵さんは、相談内容について、学生同士や教員とのコミュニケーションが苦手、自分が発達障害なのかどうか不安、単位取得が難しい、就職や進路に悩んでいるなど、「多岐にわたる」と述べた。

発達障害者の就労支援を行っている、さっぽろ駅前クリニック北海道ワークサポートプラザの大浜伸昭所長は、学生生活になじめず、うつ症状が出て休学した学生を支援したケースなどについて、札幌学院大の二通論教授は同大の発達障害の学生が集まり、悩みを話し合う活動をそれぞれ紹介した。

発達障害のある学生の支援について話し合った勉強会